

IHI Report 第195期 中間  
平成23年4月1日～平成23年9月30日

**IHI**

証券コード：7013

株式会社 **IHI**

21世紀の環境, エネルギー, 産業・社会基盤における諸問題を,  
ものづくり技術の中核とするエンジニアリング力によって解決し,  
地球と人類に豊かさと安全・安心を提供する  
グローバルな企業グループを目指します。



代表取締役社長兼最高経営執行責任者

釜 和明

**Q.** 東日本大震災による国内需要の一時的な落ち込みに加え, 記録的な円高や欧州金融危機など, 海外市場においても非常に厳しい状況だと思えます。こういった状況の中で, 受注の確保に向けて, どのような施策を実施されているのでしょうか?

**A.** 受注確保のためには, 成長市場である新興国を中心とする海外市場への取り組み, エネルギーを取り巻く環境変化への対応ならびに厳しい造船市況・為替円高の中での船舶分野での対応の3点が特に重要であると考えております。

海外市場への取り組みに関しては, 本年9月, 子会社の株式会社IHIインフラシステムが, 経済産業省などの協力を得て中国・韓国企業との競争に打ち勝ち, トルコでイズミット湾横断橋の建設工事を受注しましたが, このようにパートナー企業や政府関係機関と連携をとりながら対応していくことが今後ますます重要になってまいります。そのため, 海外の統括会社や現地法人の機能を充実し, 受注を確保できる仕組みやフォーメーションを構築してまいります。

次にエネルギー関連の取り組みとしては, 社会インフラ整備の一翼を担うという使命を強く自覚し, 被災

したインフラの復旧とわが国の復興に全力で取り組んでおります。また、海外においては、シンガポールに拠点を持つ子会社を活用し、東南アジアでの案件獲得を目指しております。

最後に船舶関連についてですが、世界経済の減速で船舶需要が冷え込む中ではありますが、お客さまの環境負荷低減のニーズは高く、先般、子会社の株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドが受注した石炭運搬船も環境負荷低減技術を大きく盛り込んだことが、受注の決め手となりました。中国・韓国勢と技術力で差別化を図り、就航後のコストも含めたトータルメリットをお客さまに提供することにより、受注の確保につなげてまいります。

**Q.** 御社の想定レートは1ドル80円ですが、それを上回る円高が続いています。具体的な円高対策をお聞かせください。

**A.** 積極的にコストのドル化を推進しております。具体的には、海外生産の拡大とグローバル調達への拡大です。

海外生産の拡大については、「グループ経営方針2010」において、平成21年度比で海外関係会社の売上高を1.5倍にするという目標を掲げておりますが、順調に推移しております。一例として、車両用過給機は「グループ経営方針2010」の3カ年で欧州・中国において製造能力を増強するため、100億円を超える設備投資を計画しております。

グローバル調達への拡大については、単に「日本以外から買う」という発想ではなく、シンガポールなどの海外拠点における調達機能を強化し、現地に密着した活動を行っております。

上記以外では、米州統括会社を含めたグローバルCMS<sup>注1</sup>（キャッシュマネジメントシステム）の導入や、外貨建借入の実施という財務上の施策にも取り組んでおります。

注1 当社の銀行口座（統括口座）とグループ各社の銀行口座をシステム的にリンクさせ、各社の余剰資金を統括口座へ吸収するとともに、各社の必要資金を統括口座から供給する仕組み。グループ内の資金を有効活用し、グループ全体の有利子負債の削減が可能になる。

### 業績 ハイライト

科 目	当第2四半期累計期間	通期の業績予想
受 注 高	6,242 億円	13,500 億円
売 上 高	5,259 億円	12,000 億円
営 業 利 益	190 億円	430 億円
経 常 利 益	135 億円	330 億円
四半期純利益	50 億円	280 億円

### 中間配当について

当第2四半期末における中間配当につきましては、為替相場をはじめ、当社を取り巻く経営環境が不透明であることから、誠に申し訳なく存じますが、その実施を見送らせていただきました。

**Q.** よく分かりました。ところで、東日本大震災以後、原子力に対する逆風が強くなっていますが、今後、原子力事業にどのように取り組んでいかれるのでしょうか？

**A.** 国内における原子力発電所などの新設工事については、当面期待できない状況です。しかし、海外については、新設工事の遅れは想定されるものの、新興国を中心に原子力発電に対する需要は依然高水準であることから、今後も必要な対応を続けてまいります。

また、国内における当面の対応としては、福島第一原子力発電所の震災事故収束に全力を尽くすとともに、その他の原子力発電所においても耐震、津波対策などの安全面での改善対策に的確に対応してまいります。

**Q.** 原子力以外の分野で東日本大震災からの復旧・復興に向けて、御社が携わっている、あるいは今後携わる予定の事業はあるのでしょうか？

**A.** はい。震災直後から電力会社の要請により、原子力発電所停止に伴う代替エネルギー確保のため、火力発電所の復旧・再開に向けて対応を進めてまいりました。現在は、焼却炉によるがれき処理と廃材を利用した木質バイオマス発電<sup>注2</sup>、建機などを用いた津波汚泥処理など、複数の製品・技術を組み合わせた提案活動を行っております。当社グループの総力を挙げて、東北地方の復興に貢献するため、積極的に取り組んでまいります。

注2 バイオマス発電：木材などに蓄えられた有機物を燃焼させてエネルギーを取り出す発電方法。二酸化炭素排出量がほぼゼロであり、環境に優しい発電方法として注目されている。

**Q.** 最後に「グループ経営方針2010」の進捗状況を教えてください。期間内で連結売上高14,000億円、連結経常利益600億円という目標達成は可能なのでしょうか？

**A.** 経営方針策定時の1ドル90円という為替水準などからは、経営を取り巻く環境が激変しており、容易に目標達成できる情勢ではありません。



しかし、回転・量産機械事業における車両用過給機は、当社が主たる市場としている欧州と中国で車両への搭載率が大幅に増加しており、さらなる環境規制の高まりが追い風となって、今後も中長期的な売上拡大が期待できるものと考えております。

また、航空・宇宙事業における航空エンジンは、燃費効率の良い機体やエンジンへのニーズがますます高まっており、当社が開発・生産に参画しているエンジンの需要は高水準を保っております。

これらの事業を安定的に成長させ、今年度の通期見通しを確実に達成したうえで、当初の目標数値を達成するべく、全力を尽くしてまいります。

今後とも、当社グループに対し、株主の皆さまからの一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

「グループ経営方針2010」のコンセプトは、「ライフサイクル重視」「市場ニーズ重視の製品戦略」「グローバルな事業運営」の3つのパラダイムシフトです。

	これまでのパラダイム	新たなパラダイム	
ビジネスモデル	本体販売重視	ライフサイクル重視	製造・販売・サービスの統合によるライフサイクル全般の対応力強化を目指します。
製品戦略	技術シーズ重視	市場ニーズ重視	市場ニーズに基づいたIHIならではの製品開発を進めてまいります。
事業運営	国内中心	グローバル	海外拠点の拡充と国内拠点との連携強化により、海外工事の受注拡大を目指します。

「ライフサイクル重視」「市場ニーズ重視の製品戦略」「グローバルな事業運営」それぞれの取り組みを紹介いたします。

## ライフサイクル重視

### 具体例

- 海外の各拠点および提携先造船所との連携による、納入後のアフターサービスを強化
- 熱処理炉のメンテナンスを行なう現地法人をタイに設立
- 航空エンジンの米国整備事業の強化



## 市場ニーズ重視

### 具体例

- エアバス社の次世代機用エンジン開発に参画 **P11**
- 藻類からバイオ燃料を抽出し事業化する取り組みを本格化 **P12**
- 相生工場に世界最大級の石炭燃焼試験設備を新設、環境負荷低減技術の開発を本格化



## グローバル

### 具体例

- 官民連携によるトルコイズミット湾横断橋の建設工事を受注 **P10**
- 車両用過給機の製造拠点へのさらなる投資による生産能力の拡大 **P11**
- シンガポールの調達機能拡充
- グローバルに採用活動を展開



今年度から、組織変更に伴い、「資源・エネルギー」「船舶・海洋」「社会基盤」「物流・産業機械」「回転・量産機械」「航空・宇宙」「その他」の7セグメントに変更しております。



### ボイラ, 原子力機器, 化学プラントが減収

- ・受注高 ボイラが減少したため, 前年同期比258億円減の1,220億円
- ・売上高 ボイラ, 原子力機器, 化学プラントが減収となったため, 前年同期比267億円減の1,320億円
- ・営業損益 売上高の減少があったため, 5億円の赤字



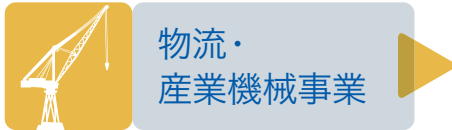
### 新造船を6隻受注

- ・受注高 新造船を6隻受注したことにより, 前年同期比86億円増の420億円
- ・売上高 新造船, 修理船が減収となったため, 前年同期比148億円減の845億円
- ・営業利益 採算改善などにより, 前年同期比5億円増の51億円



### 鋼製橋梁の受注が大幅に増加

- ・受注高 トルコ イズミット湾横断橋の受注により, 前年同期比921億円増の1,442億円
- ・売上高 コンクリート橋梁, 水門の減収により, 前年同期比21億円減の487億円
- ・営業利益 コンクリート橋梁の売上高減少により, 前年同期比ほぼ横ばいの35億円



## 物流・ 産業機械事業

	前第2四半期		当第2四半期
売上高	584億円	→	538億円
営業損益	△1億円	→	△2億円

### 交通システム、製紙機械、製鉄機械が減収

- ・受注高 圧延機、物流システム、交通システムが増加したことにより、前年同期比147億円増の816億円
- ・売上高 交通システム、製紙機械、製鉄機械が減収となったことにより、前年同期比45億円減の538億円
- ・営業損益 製鉄機械の減収により、前年同期より若干の悪化

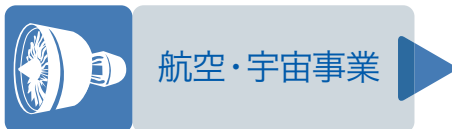


## 回転・ 量産機械事業

	前第2四半期		当第2四半期
売上高	626億円	→	789億円
営業利益	33億円	→	57億円

### 車両用過給機、圧縮機が増収

- ・受注高 車両用過給機、圧縮機が大幅に増加したことにより、前年同期比165億円増の837億円
- ・売上高 車両用過給機、圧縮機が増収となり、前年同期比162億円増の789億円
- ・営業利益 圧縮機、分離機の採算改善が寄与し、前年同期比24億円増の57億円



## 航空・宇宙事業

	前第2四半期		当第2四半期
売上高	1,216億円	→	1,190億円
営業利益	23億円	→	54億円

### 航空エンジンの受注が大幅に増加

- ・受注高 航空エンジンが大幅に増加し、前年同期比244億円増の1,388億円
- ・売上高 円高による影響により、前年同期比25億円減の1,190億円
- ・営業利益 民間向け航空エンジンの採算改善により、前年同期比30億円増の54億円



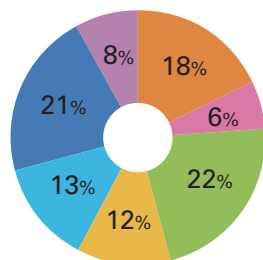
## その他事業

	前第2四半期		当第2四半期
売上高	595億円	→	522億円
営業利益	17億円	→	17億円

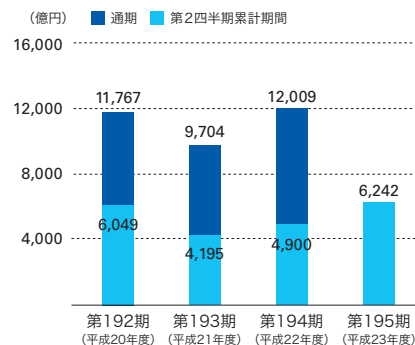
### 農業機械、建設機械などの受注が減少

- ・受注高 農業機械、建設機械などが減少したことにより、前年同期比9億円減の522億円
- ・売上高 前年同期比73億円減の522億円
- ・営業利益 前年同期比ほぼ横ばいの17億円

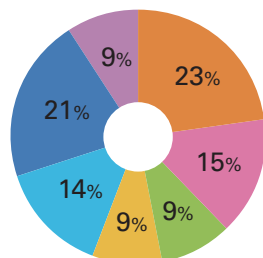
### 受注高(連結)



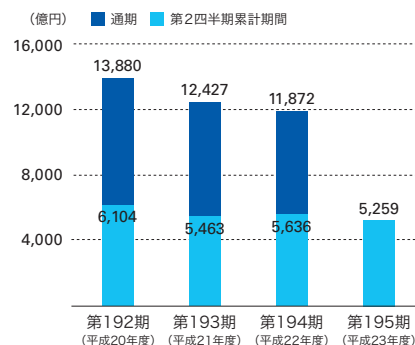
資源・エネルギー事業	1,220億円
船舶・海洋事業	420億円
社会基盤事業	1,442億円
物流・産業機械事業	816億円
回転・量産機械事業	837億円
航空・宇宙事業	1,388億円
その他事業	522億円
調整額	△407億円
合計	6,242億円



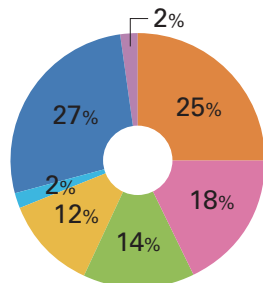
### 売上高(連結)



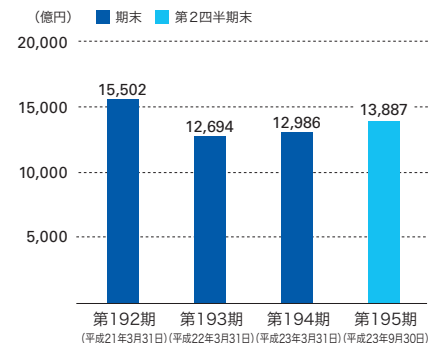
資源・エネルギー事業	1,320億円
船舶・海洋事業	845億円
社会基盤事業	487億円
物流・産業機械事業	538億円
回転・量産機械事業	789億円
航空・宇宙事業	1,190億円
その他事業	522億円
調整額	△435億円
合計	5,259億円



### 受注残高(連結)



資源・エネルギー事業	3,510億円
船舶・海洋事業	2,437億円
社会基盤事業	2,001億円
物流・産業機械事業	1,720億円
回転・量産機械事業	255億円
航空・宇宙事業	3,696億円
その他事業	265億円
合計	13,887億円





## 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期末	前期末
	平成23年9月30日	平成23年3月31日
<b>流動資産</b>	<b>828,829</b>	<b>853,405</b>
現金及び預金	64,224	116,422
受取手形及び売掛金	266,951	291,033
棚卸資産	409,106	363,099
その他	88,548	82,851
<b>固定資産</b>	<b>504,240</b>	<b>508,036</b>
有形固定資産	333,327	328,739
無形固定資産	21,443	21,056
投資その他の資産	149,470	158,241
<b>資産合計</b>	<b>1,333,069</b>	<b>1,361,441</b>

科 目	当第2四半期末	前期末
	平成23年9月30日	平成23年3月31日
<b>流動負債</b>	<b>666,931</b>	<b>691,131</b>
支払手形及び買掛金	264,271	269,445
短期借入金及び社債	136,815	144,885
前受金	124,904	123,603
その他	140,941	153,198
<b>固定負債</b>	<b>409,511</b>	<b>416,670</b>
長期借入金及び社債	213,025	215,716
その他	196,486	200,954
<b>負債合計</b>	<b>1,076,442</b>	<b>1,107,801</b>
<b>株主資本</b>	<b>235,486</b>	<b>234,684</b>
資本金	95,762	95,762
資本剰余金	43,042	43,037
利益剰余金	97,237	95,973
自己株式	△ 555	△ 88
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>3,506</b>	<b>3,402</b>
新株予約権	474	388
少数株主持分	17,161	15,166
<b>純資産合計</b>	<b>256,627</b>	<b>253,640</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,333,069</b>	<b>1,361,441</b>

## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
<b>売上高</b>	<b>525,905</b>	<b>563,683</b>
売上原価	435,273	462,303
<b>売上総利益</b>	<b>90,632</b>	<b>101,380</b>
販売費及び一般管理費	71,538	72,275
<b>営業利益</b>	<b>19,094</b>	<b>29,105</b>
営業外収益	5,648	7,049
営業外費用	11,187	11,085
<b>経常利益</b>	<b>13,555</b>	<b>25,069</b>
特別利益	-	898
特別損失	3,977	4,557
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>9,578</b>	<b>21,410</b>
法人税等	4,174	7,521
少数株主利益	376	395
<b>四半期純利益</b>	<b>5,028</b>	<b>13,494</b>

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,768	47,783
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 21,089	△ 27,436
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,873	△ 10,522
現金及び現金同等物の四半期末残高	61,816	133,220

資源・  
エネルギー  
事業米国最大級の  
LNG受入ターミナルの引渡し

当社は、平成23年9月、米Gulf LNG Energy LLC社向けLNG(液化天然ガス)受入ターミナル建設工事を、米国の大手エンジニアリング会社クバーナー社と共同で完成させ、引渡しました。今回完成したGulf LNG受入ターミナルは、ミシシッピ州に建設され、米国最大級となる16万キロリットルのLNGタンクを2基有し、同国内に天然ガスを供給します。当社は、これらの実績を足掛かりに、今後もさらなるLNG事業の展開を図ってまいります。

Gulf LNG Energy LLC社向け  
LNG受入ターミナル完成写真船舶・  
海洋事業環境負荷低減型の  
石炭運搬船を受注

株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド(IHIMU)は、このたび、第一中央汽船株式会社から97,000MTDW型石炭運搬船(バルクキャリア)3隻を受注しました。今回受注した石炭運搬船3隻は、船主が求める物流効率の最大化および消費エネルギーの最小化という要求に対応しており、IHIMUが環境負荷低減コンテナ船「eFuture」シリーズに織り込んだ主要な技術要素を導入した初めての高付加価値船です。独自開発の省エネ技術により、従来比15%以上という大幅な燃費効率の向上を実現させました。本船3隻は、IHIMUの呉工場にて建造し、平成25年に完成、引渡す予定です。IHIMUは、今後も付加価値の高い船舶の開発を行なってまいります。



「eFuture」31万トン型タンカー完成イメージ図



社会基盤  
事業

## トルコ イズミット湾横断橋の 建設工事契約を締結

株式会社IHIインフラシステム(IIS)は、平成23年9月、トルコの有力ゼネコンであるNurol社をはじめとするトルコ建設業者および伊Astaldi社の合計6社から構成される事業体NOMAYG JVとの、「イズミット湾横断橋建設工事」契約を締結いたしました。契約金額は約11億ドルで、平成27年に完成する予定です。当社およびIISは、一昨年5径間連続斜張橋であるベトナムの日越友好橋(ニャットタン橋)建設工事を受注したことに続き、このたびイズミット湾横断橋を契約したことにより、あらためてその実績と高い技術力を世界に示す機会を得ることができました。当社およびIISは、今後も国内外での橋梁受注活動を積極的に展開してまいります。



イズミット湾横断橋完成イメージ図



物流・  
産業機械  
事業

## 国内最大級の ニューマチックアンローダ の引渡し

IHI運搬機械株式会社(IUK)は、このたび、千葉共同サイロ株式会社向けニューマチックアンローダ1基を納入しました。本ニューマチックアンローダは、国内最大級の荷役能力となる最大毎時400トン(小麦換算)の荷役を実現しました。IUKは、今後も、製造からメンテナンス、改修まで対応する高度な技術力で、お客さまのニーズに最適な荷役機械を提供してまいります。



千葉共同サイロ株式会社向け  
ニューマチックアンローダ完成写真



回転・  
量産機械  
事業

## 車両用過給機事業が 海外を中心に堅調に推移

当社の主力事業である車両用過給機は、今年度、売上高が過去最高となる1,000億円を超える見通しです。

現在、排ガス規制の厳しい欧州では、環境負荷を低減するために、ガソリンエンジンのダウンサイジングの動きが進んでいます。車両用過給機は、ガソリンエンジンのダウンサイジングには必須であり、従来車両用過給機の搭載が主流であったディーゼルエンジンだけでなく、ガソリンエンジン向けの需要も増えています。

当社では、海外拠点を中心に製造能力を増強し、さらなる車両用過給機需要の拡大に対応してまいります。



IHI Charging Systems International  
Germany GmbH外観



航空・  
宇宙事業

## 仏エアバス社A320neo用 エンジン「PW1100G-JM」の 開発・生産に参画

当社は、仏エアバス社A320neo用エンジン「PW1100G-JM」の国際共同開発に、財団法人日本航空機エンジン協会(JAEC)の構成メンバーとして参画することで基本合意しました。本エンジンの開発は、A320用V2500プログラムのパートナーである米Pratt & Whitney, JAEC, 独MTU Aero Engines Holding AGの3社

で行ないます。「PW1100G-JM」エンジンは、先進ギアシステムの採用や当社の独自技術である先進複合材技術などの組み合わせにより、2桁の燃費・排気ガス・騒音レベルの改善をもたらすギアード・ターボファンエンジンです。

当社は、本エンジンにおいて、V2500同様にファンモジュールの主要部品などを担当し、国内では60%以上のシェアで参画予定です。



「PW1100G-JM」が搭載される  
A320neo ©AIRBUS



その他  
事業

## 藻類バイオ燃料の 研究開発合同会社の設立

当社は、有限会社ジーン・アンド・ジーンテクノロジー（G&GT）および株式会社ネオ・モルガン研究所と、藻類バイオ燃料事業に関する技術開発を共同で実施するIHI NeoG Algae合同会社を設立しました。

新会社では、現時点で明らかになっている藻類の中で、最も燃料生産能力が高い藻であるG&GTの開発した「<sup>えのもと</sup>榎本藻」とその培養法を用い、大量培養、油分離・回収の技術開発を進め、バイオ燃料の製造を目指します。

製造した燃料は、ジェット燃料などとして販売していく計画です。



藻培養特性試験

## 東日本大震災鎮魂行事にボランティア参加

当社は、平成23年9月10日に福島県相馬市で行なわれた東日本大震災鎮魂行事に協賛し、相馬事業所に勤務する当社グループ従業員とその家族約60名が、ボランティアとして運営を手伝いま



天灯(写真提供:株式会社山本寛齋事務所)

した。当日は、灯籠流しをイメージした

天灯(紙風船を気球のようにしたもの。プロデューサー・デザイナーの山本寛齋氏がプロデュース。)1,000個を夜空に打ち上げる追悼行事が行なわれ、空に浮かぶ赤い炎に、死者への祈りと復興への思いを託しました。社長と当社役員も天灯の打ち上げを見守り、打ち上げ終了後、寛齋氏から当社グループ関係者に対し、ボランティア協力へのねぎらいと感謝の言葉をいただきました。天灯の温もりある光に包まれ、幻想的な追悼式となりました。



ボランティア参加者

### 会社の概要 (平成23年9月30日現在)

商号 株式会社IHI  
 IHI Corporation  
 設立年月日 明治22年1月17日  
 本社所在地 〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号  
 資本金 95,762,421,600円  
 株主数 109,939名  
 ホームページアドレス <http://www.ihico.jp>



豊洲IHIビル

### 役員 (平成23年9月30日現在)

#### ●取締役

代表取締役社長 釜 和明

代表取締役副社長 昼間 祐治  
 橋本伊智郎  
 斎藤 保  
 中村 房芳

取締役 芹澤 誠  
 塚原 一男  
 出川 定男  
 坂本 譲二  
 寺井 一郎  
 瓦谷 立身  
 井元 泉  
 石戸 利典

社外取締役 浜口 友一  
 岡村 正

#### ●監査役

常勤監査役 清水 照雄  
 丸山 正和

社外監査役 井口 武雄  
 郷原 信郎  
 能仲 久嗣

#### ●執行役員

最高経営執行責任者 釜 和明

副社長執行役員 昼間 祐治  
 中村 房芳

常務執行役員 浅岡 光勝  
 瓦谷 立身  
 石戸 利典  
 岩本 宏  
 井元 泉  
 出川 定男

執行役員 吉田 詠一  
 高田 成人  
 井上 明  
 我孫子 治  
 村井 一郎  
 吉田 豊  
 寺井 一郎  
 朝倉 啓  
 青木 伸男  
 満岡 次郎  
 浜村 宏光  
 大谷 宏之  
 望月 幹夫  
 松井 一良

会計監査人

新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

## 株式事項 (平成23年9月30日現在)

### ●株式の総数

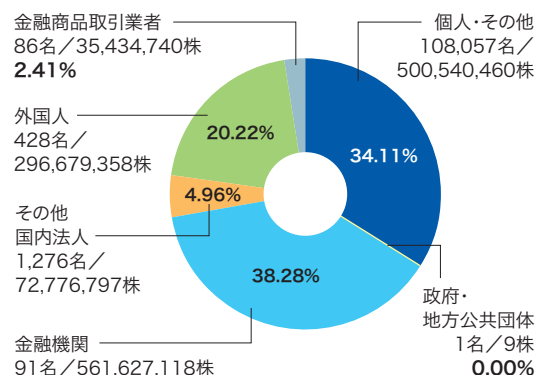
発行可能株式総数	3,300,000,000株
単元株式数	1,000株
発行済株式の総数	1,467,058,482株
うち単元株式数	1,464,092,000株

### ●大株主

株主名	持株数(株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	55,422,000	3.77
第一生命保険株式会社	54,060,700	3.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	53,147,000	3.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	46,822,000	3.19
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	43,680,050	2.97
IHI共栄会	26,425,000	1.80
日本生命保険相互会社	23,867,886	1.62
三井住友海上火災保険株式会社	22,268,000	1.51
住友生命保険相互会社	21,624,000	1.47
株式会社みずほコーポレート銀行	20,801,958	1.41

### ●株主構成

#### ■所有者別株式分布状況



(注)IHI Reportの作成にあたり、金額および株数・持株比率は単位未満を切捨て表示しました。ただし、連結財務諸表の金額は四捨五入表示しました。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会・期末配当:毎年3月31日  
中間配当:毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。

※日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

### ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

### ・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

### ・ゆうちょ銀行口座配当金受取りサービス開始のご案内

配当金のお受取りにつき、次回の配当より、銀行口座に加え、ゆうちょ銀行口座(通常貯金口座)へのお振込みによるお受取りができるようになります。ご希望の方は、平成24年1月以降に所定の用紙にてお手続きください。

#### <用紙のご請求先>

証券会社の口座で株式を保有されている株主様 ▶ 株主様の口座のある証券会社

特別口座に記録された株式を保有されている株主様 ▶ 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)

Explore the Engineering Edge

# IHI

### 株式事務のお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

